



親子三世代で楽しめるネイルチップ制作ワークショップ ーネイルを用いた創作体験の可能性ー



企画 阿部研究室 A22AB023 大河内琴巴

01 背景・目的

私はネイルをすると気分が高まり、日々のモチベーションにつながることを実感してきた。この前向きな体験をより多くの人に広めたいと考えたことが本研究の出発点である。しかし現在、ネイルは女性中心のお洒落として捉えられ、男性や中高年層には心理的なハードルが高い。そこで本研究では、誰もが参加しやすいネイルチップ制作ワークショップを企画し、親・子・祖父母が同じ場で体験することで、**ネイルの楽しさが世代を超えて共有され、コミュニケーションを生み出す契機となり得るかを検証する。**

02 方法

保育園での予備調査

子どもが好むモチーフや色を把握する。

予備調査の結果をワークショップに反映

ワークショップで使用するネイルチップの色構成を検討する。

見本用ネイルチップの制作

参加者が制作のイメージを掴みやすいようにする。

ワークショップ（本調査）の実施

親子三世代を対象にネイルチップ制作ワークショップを行う。

中高年男性への追加調査

ワークショップで参加が少なかった年齢・性別の方にも、制作体験を依頼した。

アンケート調査

ワークショップ参加者の反応や意識の変化を分析する。

04 ワorkshopへの反映

予備調査の結果は、ワークショップで使用するネイルチップの色構成に反映した。子ども用は予備調査で人気だった6色を用意し、大人用には子ども用と同系色で彩度を抑えた色調とした。



05 見本用ネイルチップの制作

ワークショップの開催時期や会場の特性に合わせ、季節のモチーフや地域キャラクターを取り入れたデザインとした。また、参加者同士の相談や交流を促す役割も持つ。



03 保育園での予備調査

- 愛西市立佐織保育園で年長児（5～6歳）6名を対象に実施した。
- ・女兒は混色をした淡色、男児は原色使用の傾向が見られた
- ・ピンク・紫・水色・赤・青・黒が特に人気であった



06 ワorkshopの流れ

- 自分の爪のサイズに合うネイルチップを選ぶ。
- 水性ペンで自由にイラストや文字を描く。
- デコレーションシールで飾り付けをする。
- 完成したネイルチップをつけて撮影を行う。
- 完成した作品は家でも楽しめるように各自持ち帰ってもらう。

07 ネイルチップ制作ワークショップ

●イオンタウン千種：2025年8月24日（参加者数40名）



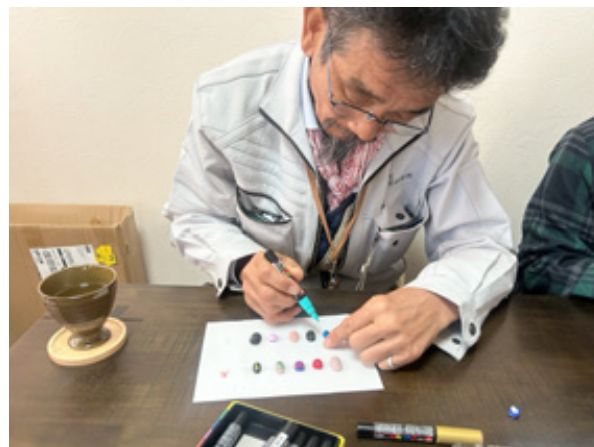
●東栄町のき山学校：2025年10月13日（参加者数27名）



●**梶山女学園大学梶大祭**：2025 年 10 月 18 日・19 日（参加者数 55 名）



●**中高年男性**：2025 年 11 月 15 日～20 日（参加者数 10 名）



08 ワークショップで観察できたこと

●**イオンタウン千種**

- ・親子でそれぞれネイルチップを作り合い作品を見せ合う様子があった。
- ・母親へのプレゼントで作っている子どもがいた。
- ・はじめは声かけで参加を施していたが、徐々に通りかかった人が「やってみたい」と自発的に参加を申し出るケースが増えた。

●**東栄町のき山学校**

- ・初めて祖母と孫の組み合わせでの参加があった。
- ・他の参加者同士でも会話を楽しみながら作る様子が多く見られた。
- ・時間に追われる様子が少なく、落ち着いて作業できていた。

●**梶大祭**

- ・親子だけでなく、学生やカップルでの参加も多く見られた
- ・大学祭という非日常的な空間が初体験の抵抗を下げていた。
- ・初めて親子三世代での参加があった。

●**中高年男性**

- ・初めは抵抗がありそうだったが、体験していくうちに楽しんでいる方が多かった。
- ・完成後、実際にネイルチップをつけて孫に自慢している様子が見られた。
- ・社名や建築にまつわる模様など、個性的なデザインが多かった。

09 参加者の声

●**親子三世代**

- ・ちょうど子どもがネイルに興味を持ち始めていたので楽しそうだった。
- ・公共の場でもこのようなワークショップがあれば、家族の会話が増えると思う。
- ・親も夢中になれて、子どもの頃に戻ったようで楽しかった。
- ・子どもが親のつくったネイルチップを見て「ママ上手！」と褒める場面があった。
- ・子どもの形にとらわれないデザインを見て沢山褒めることができた。
- ・かわいく仕上げるために、親子でバランスを相談しながら制作した。
- ・どんな色やデザインにするか親子で話し合いながら決めた。

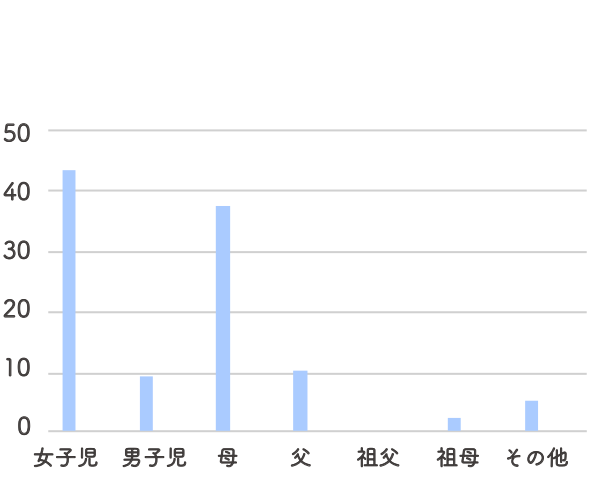
●**中高年男性**

- ・童心にかえったような感覚があり、気分転換になった。
- ・デザインを考えることが頭の体操になった。
- ・会社の PR やノベルティとしても活用できそうだと感じた。
- ・未知の体験が刺激になった。
- ・自分で文字や絵を描けるため、市販品にはない楽しさがあった。
- ・思ったより簡単で、やってみると非常に楽しく、若い気分になれた。
- ・個人の好きなことをネイルとして表現できるのが面白い。

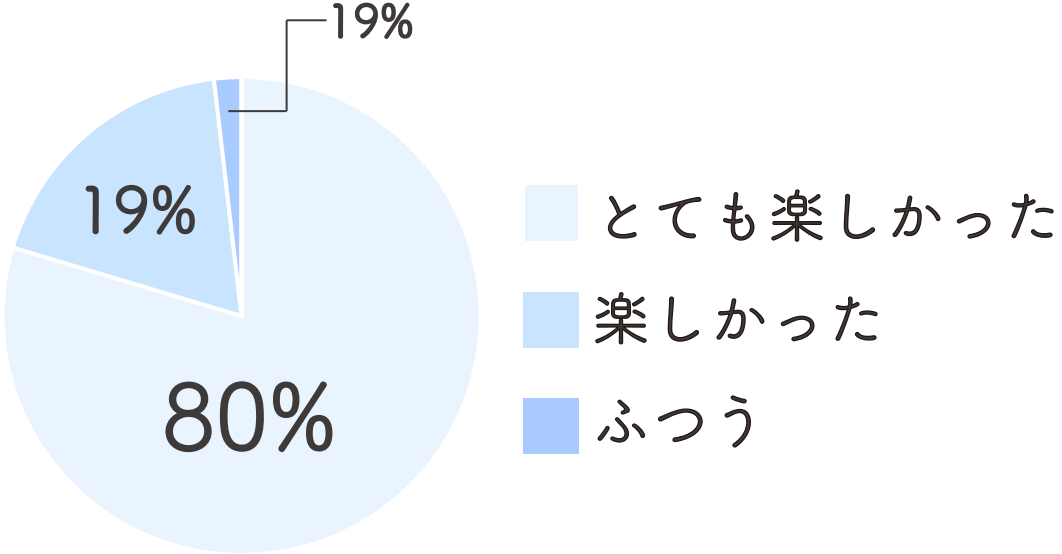
10 アンケート調査

●**親子三世代向けアンケート**

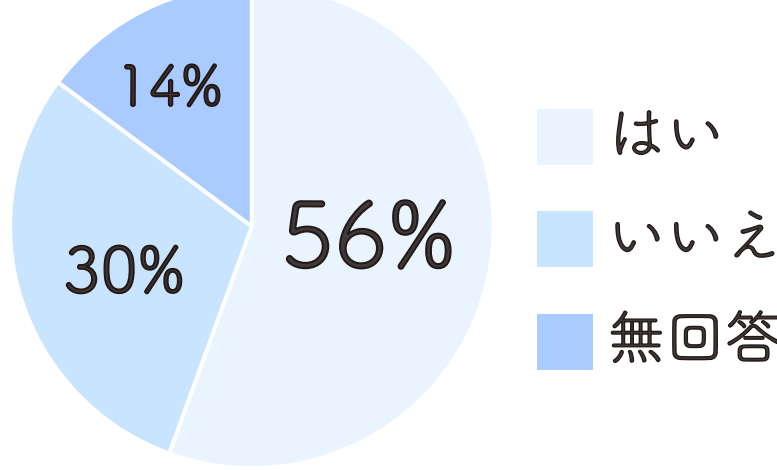
Q1 参加者の属性



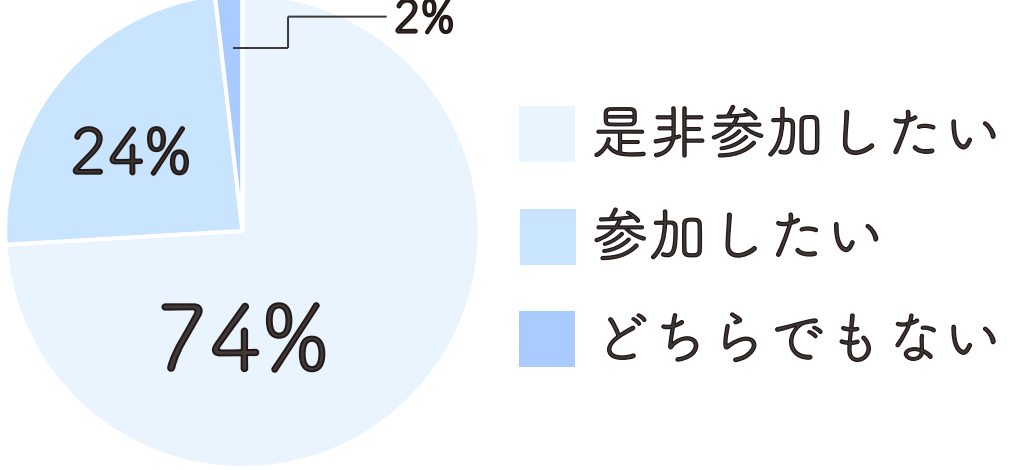
Q2 ワークショップはどうだったか



Q3 家族間で普段と違うコミュニケーションがあったか

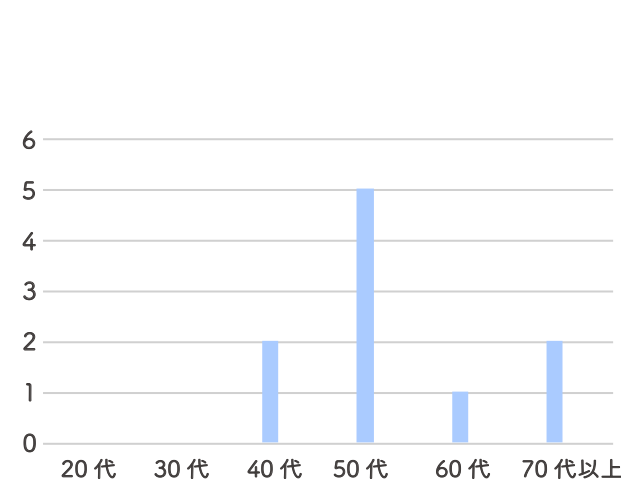


Q4 またこのようなワークショップに参加したいか

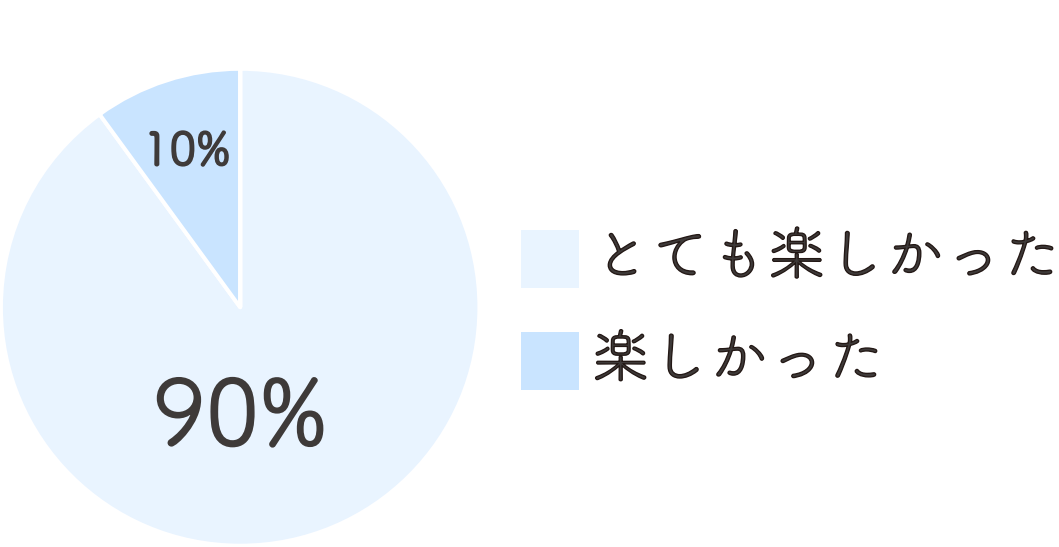


●**中高年男性向けアンケート**

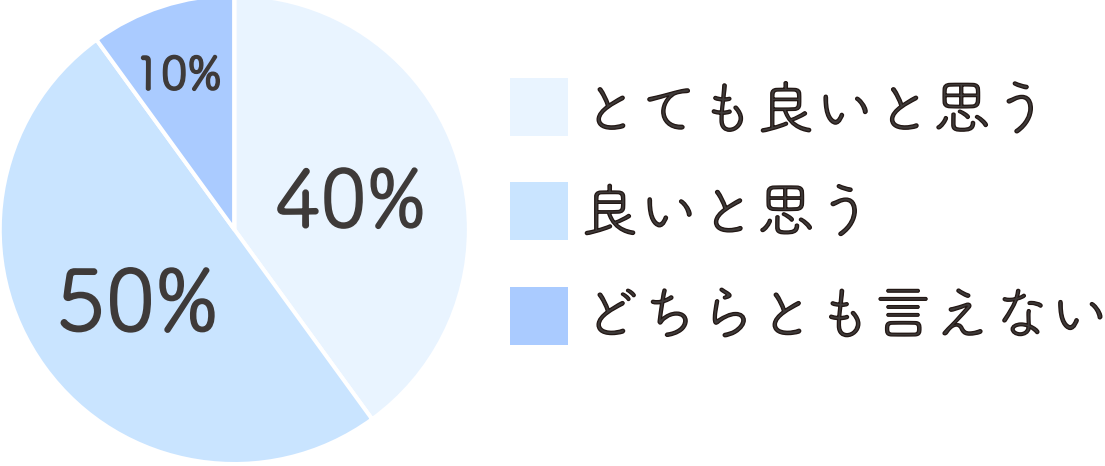
Q1 参加者の年代割合



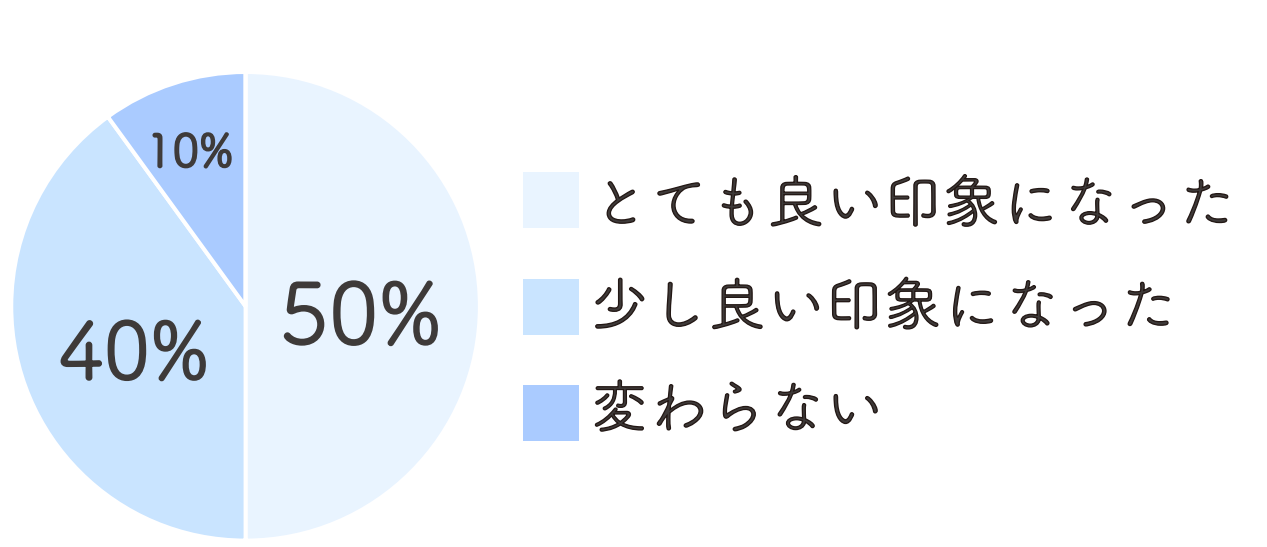
Q2 ワークショップはどうだったか



Q3 ネイルチップ制作についてどう感じたか



Q4 体験前と比べてネイルの印象は変わったか



11 まとめ

- ・ネイルチップ制作は単なる装飾ではなく、年齢や経験を問わず参加しやすい創作体験である。
- ・制作を通して、会話や関わりが自然に生まれていた。
- ・作品には、参加者の好みや性格が反映されていた。
- ・子どもと大人では、選ぶ色や表現に世代差が見られた。
- ・ネイルチップ制作は内面や価値観を表現するメディアとして機能する。
- ・ネイルチップ制作は、**世代や経験の有無を超えて楽しさを共有でき、親子三世代のコミュニケーション促進に有効である。**

謝辞

本企画の実施にあたり、多くの方々より温かいご支援とご協力を賜りました。

予備調査にご協力いただいた愛西市立佐織保育園の園長・横江一実様をはじめ職員の皆様、ならびにワークショップ会場をご提供いただいたイオンタウン千種の関係者様、のき山学校の富田達郎様に心より感謝申し上げます。

また、中高年男性を対象とした調査にご協力いただいた皆様には、貴重なご意見をお寄せいただき、本研究を深める大きな助けとなりました。

さらに、指導教員である阿部順子准教授には、研究全体を通して多くのご助言とご指導をいただきました。

最後に、研究活動を支えてくれた家族に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。